

ン汁も同じ。

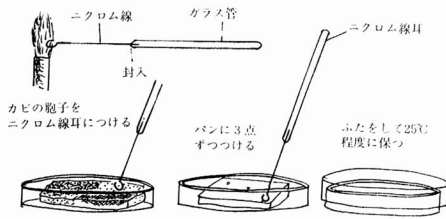


図-2

(実験の結果) 写真-1

30時間後Aの生育がいちばん悪く(各点の直径5mmほど) B, C, E, Fはほとんど同じ(各点の直径10mmほど) Dはパンの表面全体に、点々と広がっていた。

60時間後、写真-2, Dは表面いっばいに胞子が広がり, E, F, C, Bがそれにつぐ, Aの生育がもっとも悪い。

○この結果から、ニンジンやジャガイモの煮汁をしみ込ませた方が、砂糖水5%または水だけしみ込ませたものよりも生育がよいことがわかる。ただ砂糖液10%以上になると、生育状態は悪くなるようである。

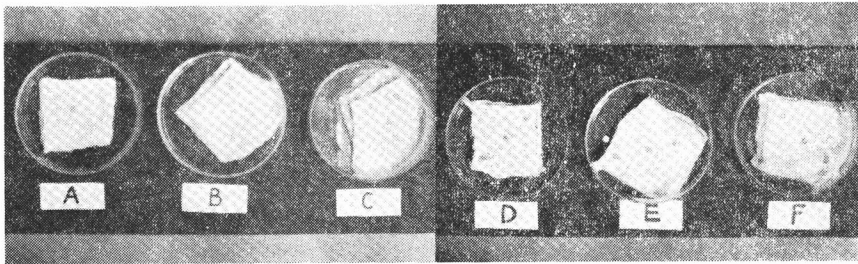


写真-1

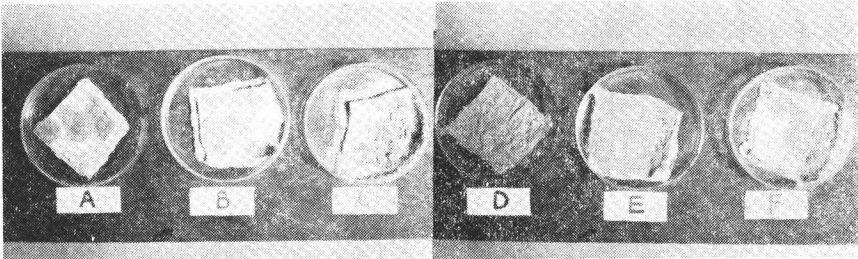


写真-2

3. 寒天培地をもちいて、栄養分とカビの生育の関係を調べる。

寒天をもとにして、それに砂糖液等をまぜて比較すると、栄養分の生育に及ぼす影響がよくわかる。つぎはその実験について述べたものである。

(実験条件)

- ①シャーレに、各種寒天培地50ccを流し込み、ふたをして殺菌する。
- ②寒天が冷えてからニクロム線耳をバーナーで焼いてさまし、アオカビの胞子をつけ、寒天の表面をい※

※ちようになでまわして胞子をつける。
③シャーレを、ふたが下になるようにして置き(水滴がカビの上には落ちることを防ぐため)25°C程度に保温する。

・実験区

- A 2%の寒天液を固める。
- B 5%砂糖液で2%寒天液をつくり固める。
- C ジャガイモの煮汁で2%寒天液をつくり固める。
- D ニンジン煮汁で2%寒天液をつくり固める。
- E ジャガイモの煮汁で5%の砂糖液をつくり、この液で2%寒天液をつくって固める。
- F ニンジンの煮汁で5%の砂糖液をつくり、この液で2%寒天液をつくって固める。

(実験の結果) 60時間後の様子、写真-3

Aは、ニクロム線耳に胞子をつけてなでたあとがわずかに白く見えるが、胞子の色はついていない。

BはAよりもはっきりしていて、わずかに胞子の色が見られる。Cは、菌糸が寒天面全体に広がり、点々と胞

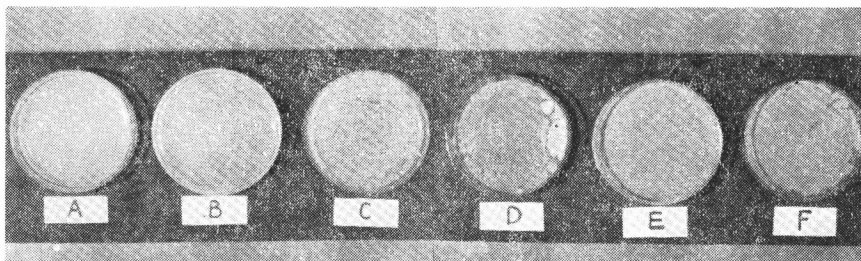


写真-3